

洲農業移民計畫、昭和九年二月には「失業対策」を審議可決して、之を各関係當局に建議すると共に、朝野の各方面に發表して、多大の反響を呼び起した。之れと同時に滿洲問題の審議に際しては前記の諸委員の他に陸軍省、拓務省、資源局等の他の関係より新委員として松井春生、生駒高常、柳川平助及び那須能の諸氏が加はつたこと、及び失業問題の審議に際しては更に上田貞次郎及び小泉信三の両氏が委員として委嘱されたことを附記するに止める。

尚、一言附記すべきことは、昭和九年四月國際勞働局次長フエルナン・モレット氏が當時世界の問題となつた我國のソシヤル・カニピンク問題に關して其の事情調査のため來朝したが、其の際本會は種々の便宜を提供し又

種々懇談する等その斡旋に努め、同氏の調査に好影響を與へるため盡力したとてである。

(一)、農村及び都市に於ける窮乏の事情に鑑み特に緊急を要する救濟事業に關する決議(大要)

本委員會は現下經濟界の未曾有の不況に直面し之が打開の途を講ずる爲一面に於て根本的對策を樹立するの必要を痛感すると共に、他面農村及び都市に於ける焦眉の窮迫せる實狀に鑑み、此際特に緊急を要する救濟事業とし至急左の處置を講むべき要ありと認む。

一、政府米の廉賣並に飯米給與に依る救濟(内容略)

二、醫療給付に依る救濟(内容略)